

# サクラのがんしゅ病対策

## 岡山県立勝間田高等学校 総合学科2年 森林系列

目的：勝間田高校では樹齢100年になるソメイヨシノがある。活力回復のため、樹木医の指導のもと癌腫（がんしゅ）病の治療を開始した。そこで、治療した木としてない木を比較して、治療の成果があるかどうか確かめた。

研究方法：癌腫病にかかり治療した木1本（A・D）としていない木3本（B・C）の生育調査を行い、生育具合を比較する（サンプル間での調査結果の差異を多重比較検定により分析）。  
調査項目：①幹1m間に生えている枝の数、②枝の長さ、③葉の枚数、④葉の大きさ

仮説：元気のある木は、枝の長さを長く伸ばし、葉をたくさんつける。病気になり元気のない木は、枝を短くしか伸ばせず、一枝につける葉の枚数も少ないのではないかと。幹または太い枝の長さが1mの間でつける枝の数、その長さ、一枝の葉の数、葉の大きさを計測すると、そのサクラの持つ、光合成をしようとする力を計ることができるのではないかと。

### 治療の実施（令和2年2月・8月）



アルミ箔を巻き、紫外線カット



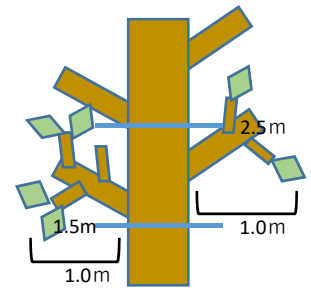
樹皮から木部表面に侵攻しているところ



ユリア系樹脂殺菌剤を塗布



ゴミをとって表面をきれいに！

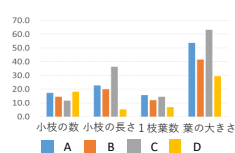


アルミ箔を剥がすと根が張り再生の兆しが！？



飯塚康雄・松江正彦 (2012) 『街路樹の倒伏対策の手引き』『国土技術政策総合研究所資料』第669号

2020年6月時点の結果



幹1mあたりの葉面積(cm<sup>2</sup>)



9 集計結果の比較



9 集計結果の比較検討



表1 集計結果の比較検討

	A	B	C	D
一枚の数	93.6	144.1	129.1	53.8
一枝の長さ	475.8	453.8	348.8	1526.4
一枝の葉数	603.8	382.5	1086	2707.2
葉の大きさ	92.6	73.8	63.1	178.8

樹木の活力調査 区分(良い、普通、少し悪い、悪い、枯死)

個体番号	A	B	C	D
樹木活力度	良い	普通	下:良、上:普	少悪い

飯塚康雄・松江正彦 (2012) 『街路樹の倒伏対策の手引き』『国土技術政策総合研究所資料』第669号に基づき樹木活力度を判定した。

### 😊 結果と考察 😊

2020年6月の調査木ごとの測定値を2020年と2022年で比較しました。また、樹木活力度を2020年6月と2022年6月に判定しました。その結果、Aは小枝の長さ476%、葉数604%で樹木活力度は「良い」を維持しています。Bは小枝の長さ434%、葉数383%、葉の大きさ74%で樹木活力度は「普通」を維持しています。Cは小枝の長さ129%、葉数349%で樹木活力度は「上普通、下良い」になりました。Dは小枝の数54%、小枝の長さ1526%、葉数2767%、葉の大きさ179%で、樹木活力度は「少し悪い」から「良い」に2段階アップしました。

2020年6月のデータを基準とした2022年6月のデータ割合は、幹1mあたりの葉面積では、A「24.9倍」、B「17.6倍」、C「30.9倍」、D「406.3倍」でした。2年前と比較して、Dの健全度合がかなり改善された結果となりました。治療を継続した調査木「A」と今回治療を行った調査木「D」と対象木「C」で、活力度が「良い」となりました。調査木「D」が明らかに活力度が増し、健全になっていることがわかり、取り組みの結果が出たことをとてもうれしく思いました。この治療法が、サクラにとって良い方法であると考えられます。次回は、活力度が「普通」になっている調査木「B」の治療活動を行うとともにアルミホイルの見た目の悪さについても検討していきたいと思います。